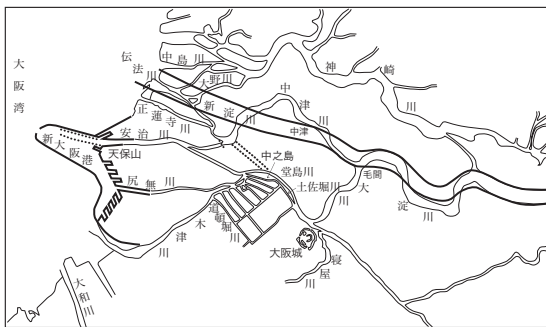


デ・レーケと富山

明治17年10月に、2代目大阪府知事から近代的な大阪港の築造計画を任されたデ・レーケは、それまで見てきた航路としての安治川、木津川(京都府)だけでなく、堂島川、中津川、伝法川、正蓮寺川、神崎川といった一度も行ったことのない淀川末流一帯を詳細に調査した。そして、港に上流からの大量の土砂がたまらないようにする為、淀川を一本の川にして、洪水を直接大阪湾へ流すことを思いついた。

大阪市内の堂島川から伝法川へ新しい川を掘り、中津川の河口の兩岸の導流堤を海の沖に長く延ばすという計画である。導流堤



..... デ・レーケが当初計画した「計画甲」
 ———— その後の変更案
 「日本の川を甦らせた技師デ・レイケ」より（一部改変）

は、デ・レーケが以前、九頭竜川河口で成功したように、洪水の土砂を大阪湾の沖の深いところへ自然の力で流すためのものだ。こうすることで、安治川河口左岸の天保山を中心に、海の中へ防波堤に囲まれた海港をつくることができ、

また、大阪港から安治川を通って、蒸気船が大阪市街地や京都の伏見港へも行き来できると考えた。

この計画をデ・レーケは、「計画A」と名づけ、通訳は「計画甲」と和訳した。報告書は、明治20年4月18日、「大阪築港並二淀川洪水通路改修計画」として内務省土木局長へ提出された。

その後、明治22年8月に出水があったため、デ・レーケは上流の木津川(京都府)、桂川、鴨川、宇治川からの洪水流量を算定し、毛馬から先の中津を中心にして新しく淀川を開削する新しい計画を立て、明治23年7月1日、内務省土木局長に提出した。この変更計画「京都府並二大阪府ノ管下ニ於ケル淀川毎年ノ漲溢ニ対スル除害ノ新計画」には、毛馬より上流の京都府下の河川改修も含まれていた。⑧